

～SDGs でつなぐ～ 福岡・タイ エクスチェンジプロジェクト

【概要】

「世界に打って出る若者育成事業」は、国際的な視野を持った青少年を育成するため、福岡県が平成 23 年度から実施している事業である。県内の高校や大学などが実施する海外体験プログラムの補助を通して、高校生や大学生の海外体験・活動を支援している。県内の大学、短期大学、高等専門学校、専門学校（専門課程 2 年制以上）、高校、中等教育学校（後期課程）、特別支援学校高等部、高等専修学校（高等課程 3 年制）が現地青年との交流活動、ホームステイなど、生徒や学生が現地の生活や文化に触れ、将来長期の海外留学や調査研究、海外勤務など多様な活動を起こすきっかけとなるようなプログラムを起案し、応募する。令和 5 年度「世界に打って出る若者育成事業」において本校の「～SDGs でつなぐ～福岡・タイ エクスチェンジプロジェクト」が採択されたため、ここに報告する。

【プロジェクトの特徴】

学生のみで構成されたプロジェクトチームが、タイの中学生と共に、両国の環境に対する取り組みをテーマに未来の環境保護への取り組みに向けて学生主体で考える。両国の学生は事前研修を通して既存の環境への取り組みについて理解を深めることができるほか、ホームステイでは福岡の食材を使った料理を作るなどして福岡の紹介をしながら異文化交流を図る。滞在中、プロジェクトチームは中学生が更なる理解を深めるため福岡 SDGs 短期留学を本校学生が主体的に企画、現地中学校と交渉を経て、最終日に中学生にプレゼン。本プログラムでは現地に行って終わりではなく、帰国後、中学生の受け入れに向け学生主体で準備し、来福時には自ら企画した留学プログラムにアテンド、プロジェクトを入りから出まで一貫して担当することでグローバル人材に必要な資質能力を高める。

【プロジェクトの趣旨・目的】

本プロジェクトは、本校生徒が柳川高等学校附属タイ中学校訪問に趣き、「廃棄物処理福岡方式」や環境モデル都市北九州市の公害克服の取り組みを紹介すること等を通して、共に SDGs についての考えを深めようとするものである。事前調査の結果、タイ王国におけるゴミ問題の解決は喫緊の課題であり、柳川高等学校附属タイ中学校訪問の生徒も社会科の学習の中でそれについて学んでいることをつかんでいる。このプロジェクトを展開する前提として、本校の学生が主体的に福岡県における SDGs に向けた先進的な取り組みを調査し、それらを整理し他者と共有するというプロセスが欠かせない。また、中学生が更なる理解を深めるため福岡短期留学を本校学生が企画・運営する。その過程を通して、①コミュニケーション力、②英語力、③主体性、④柔軟性、⑤福岡の文化・伝統理解、⑥周囲への関心・好奇心、⑦ビジネスマナー、⑧チャレンジ精神、⑨責任感、⑩リーダーシップ力等の資質能力育成を図ることができると考える。

【実施報告】

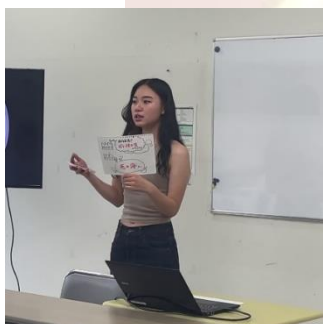
5/24【事前研修1回目 オリエンテーション】



この日は本プロジェクトを企画した担当職員よりプロジェクトの概要について説明、参加者の役割分担を取り決め、事前の郷土研修含む今後のスケジュール等について打ち合わせを行った。

5/25【事前研修2回目 座学①】

テーマ：環境モデル都市北九州市「ばい煙の空、死の海から奇跡の復活」



1960年代における北九州公害問題（ばい煙の空、死の海からの復活）をベースに北九州市が環境に対しどのように取り組み、復活したかについて事前に学生が調べてきた内容を発表しながら座学を行った。北九州地域は、日本の四大工業地帯の一つとして、重化学工業を中心に発展し、日本の近代化・高度経済成長の牽引役を果たしてきた。しかし産業の繁栄は、一方で激しい公害をもたらし、1960年代には「ばい煙の空」と呼ばれた北九州地域の大气汚染は国内最悪を記録、洞海湾は工場廃水により「死の海」と化した。この公害に対し、対策を求めて最初に立ち上がったのは、子どもの健康を心配した母親たちだった。住民運動やマスメディアの報道が公害に対する社会の問題意識を高め、企業や行政の公害対策強化を促したのである。市民、企業、行政の一体となった取り組みにより、環境は急速に改善され、1980年代には環境再生を果たした奇跡のまちとして国内外に紹介された。

5/26【事前研修3回目 座学②】

テーマ：民間企業が取り組む環境政策について



福岡で環境への配慮をしている企業について学生が事前に調べたものを発表しながら座学を行った。CO2ゼロの自然エネルギー100%のみのクリーン電力を販売している「ハチドリ電力」や100%自然由来のストロー・竹歯ブラシなど、日常から脱プラスチックできる商品を取り揃えている「株式会社UPAY」など、福岡の企業にスポットライトを当てた。

5/29 【事前研修4回目 座学③】

テーマ：廃棄物処分方法「福岡方式」



日本全国のごみ埋立地 約 200 箇所 全体 85%が、準好気性埋め立て構造という技術を採用している。この技術は、1966年頃から花嶋福岡大学名誉教授の元で廃棄物の埋め立てのために研究され、1973年から3年間、福岡大学と福岡市の共同プロジェクトによって実証、1979年には当時の厚生省（現在の環境省）により最終処分地の標準構造として認定され、高度成長期で環境問題に直面していた日本で広く普及をしている。その後、この技術は海外においても注目され、国連ハビタットや JICA を通じて、ミャンマー、ベトナム、エチオピア、ケニアなど世界17か国に採用される技術となっている。準好気性埋立構造（福岡方式）について学生が自習した内容に基づき座学を行った。

7/2 AM 【事前研修5回目 フィールドワーク①】

クリーンパーク（臨海）工場見学 ～福岡市の環境への取り組みについて学ぶ～



各家庭で分別され回収されたごみが工場でどのように処理されているのかについて学んだ。見学では実際のパッカー車（ごみ収集車）を見たり、集積所でごみが投入されるシーン、クレーンにより移動されるシーン、850℃以上の高熱で、4～5時間かけてダイオキシンの発生を抑えながら燃やされるシーン、中央制御室で一日2交代制で24時間監視しているシーンなど見学できた。

7/2 AM 【事前研修6回目 フィールドワーク②】

臨海 3R ステーション見学 ～リサイクル商品について学ぶ～





NPO 法人エコネットふくおかが運営している「臨海3Rステーション」を訪問。3Rとは Reduce (発生制御)、Reuse (再利用)、Recycle (資源再利用) のことである。2001年に環境について考えたり学んだりできる施設として誕生し、以来各家庭で不要になった家具や衣料品などを持ち込むことができる。ここではリサイクル体験をすることができ、この日学生はリサイクル紙を使った紙すきのはがきを作ったり、マイスタンプを作ったりした。

7/2 PM 【事前研修7回目 フィールドワーク③】

北九州タカミヤ環境ミュージアム見学 ～北九州市の環境への取り組みや歴史について学ぶ～

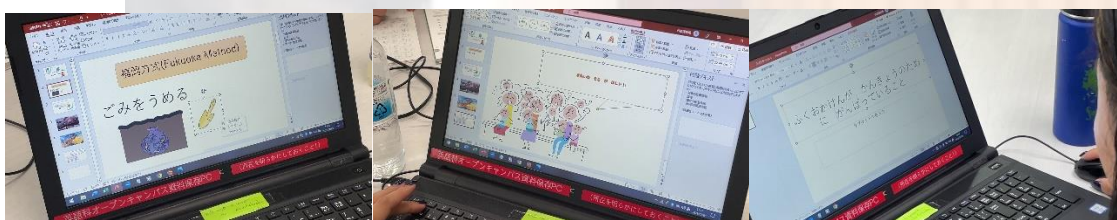


タカミヤ環境ミュージアムは平成13年に行われた「北九州博覧祭」のパビリオンを利用して作られた、環境学習、環境情報、環境活動の3つの機能を備えた「環境学習施設」である。本施設では北九州市の公害克服の歴史の紹介や身近なエコライフなどについて学ぶことができる。施設自体が環境技術を駆使した建物で、自然素材やリサイクル素材を積極的に使用したり、太陽光をエネルギーとして利用するなど、施設全体で環境に配慮していた。館内は6つの展示ゾーンから成り、北九州の公害克服の歴史、身近な環境問題から地球環境問題まで見学ご担当者様が丁寧にご説明してくださり、総合的に環境について学ぶことができた。地球温暖化や廃棄物問題をはじめとして、様々な形で環境問題が急速に深刻化しているが、その原因の多くは、人間一人ひとりの日常生活の積み重ねにある。環境にやさしい持続的な社会を実現するためには、学校、企業、市民、市民団体、行政それぞれが主体となり、相互に連携して取り組んで行かなくてはならないと感じた。

7/3 【事前研修8回目 訪問準備①】

タイの中学生向けプレゼン資料作成





ここまでの学びについて、タイの柳川中学校の学生に紹介・共に考えるため、やさしい日本語でのプレゼンテーション資料作成に取り掛かる。難しいトピックなだけに日本語を得意としない人に向け、如何に簡単に正確に伝えることができるかに注目し、試行錯誤しながら作成を始めた。

7/4 【事前研修9回目 フィールドワーク④】

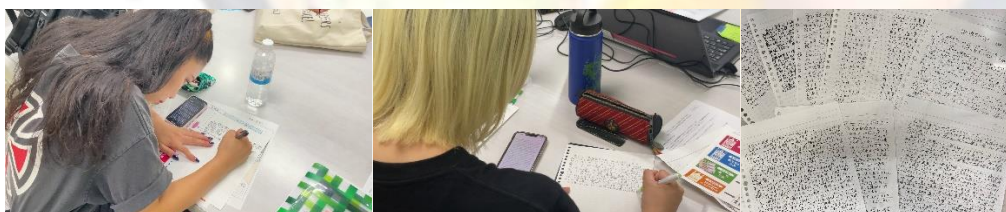
株式会社かわなべ訪問 ～ごみ回収について学ぶ～



ここまでの座学・フィールドワークでは実際にごみがどのように処理されるかについて学ぶことができたが、そこに辿り着くまでの収集過程については知っているようで知らなかったため、福岡市の業務委託でごみ収集をしている会社、「株式会社かわなべ」を訪問し、同社の専務取締役自ら同社で行っているごみ収集やその歴史についてご説明頂いた。お話を聞くまでは考えたこともなかったが、福岡市は全国でも珍しく夜間にごみを回収しており、昼間にパッカー車を見ることはおろか、ごみの悪臭を嗅ぐことも全くなく、市民の暮らしや健康に配慮したごみ収集をしているという発見があった。

7/5 【事前研修10回目 座学④】

レポート作成



見学先へのお礼も兼ねて見学先での学びをレポートにし見学先に送付した。

7/10 【事前研修11回目 訪問準備②】

タイの中学生向けプレゼン資料作成



プレゼン資料作成を進めていく中で、準好気性埋め立て構造について更なる疑問点が生まれた。株式会社かわなべ様のご紹介により福岡方式にお詳しい NPO 法人 SWAN-Fukuoka の川鍋茂氏にお会いし準好気性埋め立て構

造における自分達の理解との照らし合わせ、更なる理解を深めるべくアポを取った。

7/11【事前研修1 2回目 フィールドワーク⑤】

福岡方式立ち上げメンバー面談 準好気性埋立構造（福岡方式）について学ぶ



NPO 法人 SWAN-Fukuoka の川鍋茂氏と面談。準好気性埋め立て構造の基本についてスライドを用いてご説明頂き、世界のゴミ事情などについても理解を深めることができた。3Dプリンターで製造した『準好気性構造（福岡方式）立体モデル』の模型を使い①底部浸出水集排水管、②接続柵、③堅型ガス抜き施設の構造、並びに第1層目（初期層）の埋立順序などの解説をして頂き非常にわかりやすかった。最後には現在作成途中のプレゼン資料をご確認頂き、添削やアドバイスなどを頂いた。

7/12【事前研修1 3回目 訪問準備③】

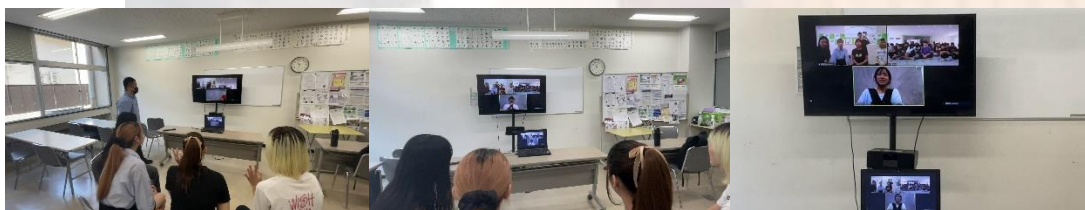
現地プレゼン練習、福岡県食材 PR 準備



完成したプレゼンテーション資料でプレゼンの練習を行った。色で文字が読めない部分や難しい日本語を使った部分など修正が必要な箇所が見えてきたため即座に修正。その後、今回訪問するタイのホームステイ先（中学生の実家）で振る舞う福岡の食材（華味鶏のかしわ飯）を試作し、試食した。

7/21【事前研修1 4回目 訪問準備④】

タイ中学生とオンライン事前交流、プレゼン最終練習



今回訪問するタイの柳川中学校とオンラインで事前交流を行った。全校生徒が集まっており、簡単な日本語ゲームで交流をした。来月会う期待が双方で高まった。その後、最終のプレゼン練習を行った。

8/6 【海外研修1日目】 出発～到着～オリエンテーション



05:00 福岡空港国際線、早朝のため各自タクシーで空港に集まった。副校長がわざわざ見送りに来て下さった。

08:15 出国手続きを終え、エアアジアで出発

11:45 ドンムアン国際空港着、入国手続きは長蛇の列だった。

13:00 預け荷物を引取り、国内線ターミナルに移動、チェックインを済ませ両替所で日本円をバーツに両替。

1万円両替して約 2100 バーツ。乗り継ぎまで時間があったので、遅い昼飯となったが空港内のフードコートで食事を取ることにした。バーガーキングでハンバーガーセットが 400 バーツ。日本円にして約 2,000 円。異次元の円安の影響で物価が日本よりも高く感じた。円安になる前はバーツに 3 をかければ日本円にできていたが、現在は 5 かけるの必要があり、もはやアジアも気軽に行ける国ではなくなってきたと実感した。

14:45 空路にてドンムアンからナコーンシータンマラートへ

16:05 ナコーンシータンマラート到着

17:30 預け荷物を引取り、チャーター車でホテルへ移動

18:30 ホテル到着、チェックイン、荷物を部屋に預け小休憩。

19:30 ロビーでオリエンテーションを実施。スケジュールの再確認、海外での行動における注意点など説明を行い、翌日に向け早めに就寝した。

8/7 【海外研修2日目】

柳川高等学校附属タイ中学校訪問、1&2年生と SDGs 交流、学食体験、企画会議、ホームステイ先家族対面



07:45 ホテルチェックアウト

08:00 チャーター車にてホテル出発

08:35 柳川高等学校附属タイ中学校の副理事長、校長先生、事務局長様にご挨拶した。

08:40-10:10 いよいよ同校2年生との SDGs 交流。本校学生はこれまで準備してきた福岡県(福岡市、北九州市、民間企業)の環境問題や取り組みについて日本語でプレゼン。同校の副理事長であられるテムラック・チャオ氏

は日本語が堪能な方であるため、内容を全て通訳してくださった。

12:00-12:30 学食を体験

12:30-14:00 同校1年生と SDGs 交流。午前中と同内容で実施、質疑応答など対応した。

14:00-16:30 企画会議

タイでも数十年前の日本が抱えていたごみ問題があることが中学生との交流を通してわかった。タイでは福岡のように各家庭でごみの分別は行っておらず、全てごちゃまぜにし各家庭で燃やして自宅の地面に埋めているとのことだ。やはり、先進国の処理技術というのを実際に見て感じてもらう教育ツアーを企画すべきだと改めて感じた。本校学生は同校中学生を日本へ招聘し、日本（福岡）のごみ処理方法や環境について学べる教育ツアーの企画をすべく、早速話し合いをした。

16:30-18:00 ホームステイ先家族と初対面。双方で自己紹介後、今後のスケジュールなどについて確認した。

18:00-20:00 学生はそれぞれのホームステイ先へ向かった。

8/8 【海外研修3日目】

柳川高等学校附属タイ中学校訪問、2&3年生と SDGs 交流、学食体験、企画会議、ホームステイ



10:10-11:50 3年生と SDGs 交流 前日の1年生2年生に向けて行ったプレゼンと同内容で実施、質疑応答など対応した。

12:00-12:30 学食体験

12:30-14:00 2年生とタイが抱える環境問題についてディスカッションし、日本の教育ツアーでどのような場所に連れていくべきかヒントを得るためヒアリングを実施した。

14:00-18:00 企画会議

18:00 学生はそれぞれのホームステイ先へ

8/9 【海外研修4日目】

柳川高等学校附属タイ中学校訪問、1年生と語学交流、学食体験、企画会議、ホームステイ、福岡食材PR





10:10-11:50 1年生と語学交流をした。本校学生は中学生の日本語の授業にゲストティーチャーとして参加し、日本語の授業のお手伝いをした。

12:00-12:30 学食体験

12:30-14:00 企画会議

14:00-22:00 学生はホームステイ先の家族に福岡の食材（華味鶏のかしわ飯と一蘭のラーメン）をPRすべく、それぞれのホームステイ先へ移動。かしわ飯は事前に試作し練習していたため、無事に作ることができた。とても美味しいと好評だった。

8/10 【海外研修5日目】

柳川高等学校附属タイ中学校 SDGs 研修旅行提案、中学生プレゼン、修了式、ごみ埋め立て地視察、ホームステイ先家族と食事会、観光地訪問、空港での別れ



09:00-10:00 本校学生は企画会議で出した福岡 SDGs 短期研修プログラムの草案を副理事長、校長先生、事務局長に提案した。偶然にも同校が今年の10月10日～14日の期間で福岡への修学旅行を計画しているため、10月15日から3日間、厳正に審査した数名の学生の滞在を延長する形で、今回の教育ツアーを企画してはどうかという話になった。帰国後、今回提案した教育ツアー草案に基づき、各種手配を進めていくことで合意した。

10:00-10:45 タイが抱えるゴミ問題をテーマに中学生（計5グループ）が日本語でプレゼンした。

10:45-11:00 修了式

中学校のご厚意で本校学生のための修了式を実施。本校学生は4日間の訪問における感想をそれぞれ発表、修了証を授与された。全校生徒が集まっていたので、当初の計画ではこの場で日本教育ツアーの発表をする予定だったが、福岡滞在期間におけるホームステイ先受け入れの人数が確定しなかったため、後日改めてオンラインで発表することにした。

11:00-12:30 ナコンシータンマラートのごみ処理場を訪問。ピラミッド式にごみを積んでいる状況しか見る

事ができなかったが、異臭が激しく、池のような場所は水が黒く濁っていた。

12:30-13:00 昼食会場へ移動

13:00-14:00 中学校職員と全ホームステイ先家族と一緒に食事会をした。

14:00-16:00 全ホームステイ先家族と市内観光をした。国王も来たことがあるという有名な滝を訪問。

16:00-17:00 夕食会場へ移動

17:00-18:00 全ホームステイ先家族がレストランで送別会を開いてくれた。

19:30-20:00 空港で全ホームステイ先家族に見送られたが、全員別れが名残惜しく、最後はみんな号泣した。

20:20 空路にてバンコクへ

21:35 ドンムアン空港に到着、チャーター車にてバンコク市内のホテルへ

23:30 ホテルにチェックイン 翌日も早いので早めに就寝した。

8/11 【海外研修6日目】

ランシット大学訪問、キャンパスツアー、学食体験、同大日本語専攻生とSDGsをテーマに相互プレゼンおよびディスカッション、タイ在住のFFLC卒業生と懇親会



09:00-11:00 ランシット大学へ移動。やはりバンコクは渋滞が激しかった。

11:00-11:15 ランシット大学教養カレッジの副学長様と面談。スライドやビデオを使った大学の概要について説明を受けた。

11:15-12:00 大学の色々な施設を見学するため、副学長、教養カレッジ教員数名、日本語専攻生全員がキャンパスツアーを実施して下さった。

12:00-13:00 日本語専攻生と学食体験。大学のフードコートを経験。学内にはフードコートをはじめ、スターバックスやレストランなどがたくさんあった。

13:00-16:30 日本語専攻生に対し、本校学生が中学校向けに作成したプレゼン資料を使い、福岡の事例についてプレゼンをした。その後、グループワークを行った。本校学生は日本語専攻生が事前に調べたタイの環境問題について纏めたプレゼンテーションを聞き、ディスカッションを行った。都会で車やバイクの交通量が多いバンコクと田舎で交通量も少ないナコーンシータンマラートではCO2の排出量やPM2.5問題に大きな違いや差があることがわかった。

16:30-17:30 プログラム終了後、数名の日本語専攻生が本校学生との交流を望み、カフェで少し話をした。

17:30-19:30 ランシット大学訪問終了後、タイ在住の本校卒業生に会うため中華街のレストランに移動。

19:30-21:30 卒業生とレストランで懇親会。タイでの生活について色々話を聞くことができた。今回会った卒業

生のうち、3名中2名は現在ランシット大学に在学中であり、残り1名はランシット大学卒業後、タイで映像制作会社を起業し、現地スタッフを雇って奮闘している。

8/12【海外研修7日目】

ランシット大学日本語専攻生とバンコク市内観光、帰国



09:45 ホテルチェックアウト

10:00-18:00 バンコク市内観光・ショッピング (MBK センター、ウィークエンドマーケットを訪問)

この日は前日に会ったランシット大学日本語専攻生達が1日観光・買い物に付き合ってくれた。

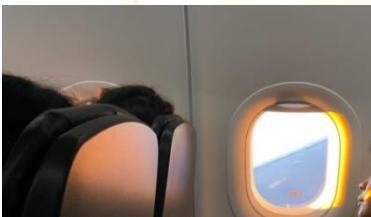
18:00-20:00 ホテルから空港へ移動

20:00 チェックイン・出国手続き

23:35 空路にて帰国

8/13【海外研修8日目】

福岡到着



07:05 福岡空港に到着 それぞれ帰宅。

【引率者による感想】

今回のプロジェクトの青写真は引率した私が描いたものですが、それ以外は全て学生にゼロイチで任せました。プレゼン資料作成における事前調査、各種渡航資料作成、企業とのアポ取り、訪問企業へのお礼、航空券・ホテル手配、ヒアリングによる市場調査、企画書作成、相手先へのプレゼン・交渉、帰国後は招へい手続き、企画に基づく各種手配など、このプロジェクトを入りから出まで一貫して自分達でやることによって、これから社会に出て実際に役に立つスキル・経験が培えると思ったからです。実際、それら全てが詰め合わさったプロジェクトになったんじゃないかなと思います。社会経験が全くない学生達ですので、メンターである私が時折厳しく指導にあたると、学生の中には顔を真っ赤にする者や、根性を出してやる気を出す者、時としてやる気を失くしてしまう者もいました。私も若い時はそうでしたし、学生の頃にこんな経験していたら、新入社員時代に怒られることも少なかったんじゃないかなって思うんですね。本プロジェクトの最終的且つ理想のゴールは2つあって、一つは今回のプロジェクトに参加した学生達がグローバル人材に必要なスキルを身に付けること、もう一つは今回関わった両国の学生の中から一人でもいいので未来の地球環境に変化を起こせる人物が輩出されることです。といっても今回のプロジェクトの目先のゴールは中学生の日本スタディーツアーまでですので、今回の訪問はある意味ターニングポイントでこれからの受入準備が肝心なのですが、プロジェクトを乗り越えた時にはきっと学

生達の中で何らかの変化が起きるはずで、一生懸命やればやるほどですね。本プロジェクトを通し、学生達が成長し、新社会人になった時に、ここで培ったスキルが少しでもアドバンテージとして活ければプロジェクトを起案した私としても本望です。ファイト！（教務企画主任 梅津）

【今後の予定】

8月未までに：柳川高等学校附属タイ中学校に10月のスタディーツアーの最終草案提出

9/6 15:45-16:00 なみきスクエアにて英語科全生徒に対し、今回の訪問について報告会

10/14～10/16 柳川高等学校附属タイ中学校の学生受け入れ

時期未定 柳川高等学校附属タイ中学校敷地内に準好気性埋立構造（福岡方式）のミニ版を教育目的のため建設

